

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 花房 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	書くことに関しては、学習の成果が見られるが、言葉の働きや描写を理解することに関する事項については、不十分な傾向が見られる。
	よくできた問題	漢字を正しく書き表す問題、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題
	努力が必要な問題	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える問題、登場人物の相互関係について、描写を基に捉える問題

算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」に関する内容については、正答率が全国を上回る結果が得られたが、「割合」「表やグラフからのデータの読み取り」に関しては、不十分であった。
	よくできた問題	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解する問題
	努力が必要な問題	目的に応じてグラフを選択し、必要な情報を読み取る問題、百分率で表された割合を分数で表す問題

理科	全体的な傾向や特徴など	「粒子を柱とする領域」に関する内容については、正答率が全国を上回る結果が得られたが、「エネルギーを柱とする領域」「生命を柱とする領域」に関しては、不十分であった。
	よくできた問題	実験器具に関する正しい扱い方、知識を問う問題
	努力が必要な問題	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起き、朝食接種など生活習慣が整っている児童が多いが、携帯、ゲームを長時間する児童が多い傾向がある。(平日2時間以上が49.9%)家庭との連携が必要である。携帯電話やスマートフォンを持っている児童は、59.1%。 ・自己肯定感が高く、将来への夢や希望をもっている児童が多い傾向がある。 ・学校が楽しいと感じている児童が100%であり、友達と協力したり相談しあったりして生活することによさを感じている児童が多い。 ・各教科等の学習場面で、自分の考えを持ち、課題に向かって解決する学習に取り組んでいると感じている児童の割合が高い。 ・コロナ感染予防の中で、「話し合う」活動が制限される面もあるが、児童の多くが、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている。話し合い方の工夫や考えの交流の仕方を工夫していることが考えられる。 ・国語、算数、理科の3教科いずれも、ほとんどの児童が勉強することの意義があると感じているが、算数については内容の理解が難しいと感じている児童が他の2教科に比べて多い。「わかる」授業の創造が必要であると考える。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・国語科では、物語文や説明文の読み取りの学習では、言葉の意味や言葉と文章のつながりを考える学習を充実する。 ・算数科では、表やグラフの読み取りおよび計算の学習問題に取り組み、理解を深めるようにする。 ・理科では、何が【問題】なのか、その意味を正しく理解できるようにする。さらに、観察や実験を通して、問題に対する適切な【まとめ】の仕方を身に付けていくようにする。 ・GIGAスクール構想の推進、ICTのさらなる有効活用を通して、主体的に教材とかかわったり、様々な情報や自分の考えを伝合ったりするようにし、効率的に学力を高める。 ・今後も、体験したり、調べたり、考えを伝えたり、聞いたり、交流したりすることによって、思考力・判断力・表現力を養うようにする。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・これからも、早寝・早起き・朝ごはんを守って、生活習慣が規則正しく身に付くように保護者への理解、協力をよびかける。 ・各家庭と連携し、学年の数×10+10分を目安に家庭学習時間の確保をめざす。 ・スマホ、ゲームを適切に使うこと、時間の制限を考えて使うこと意識を高め、保護者との連携を図る。
--